



多言語化木簡解説リーフレット 作成の試み

文化庁による文化財多言語解説整備事業の一環として、都城発掘調査部史料研究室の協力を得て、奈文研における主な研究テーマの一つである木簡を対象に、英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語による新しいリーフレットを作成しました。はじめに研究員が集まり、ブレインストーミングをおこない、次のような方向性を決めました。①異なる言語文化圏から平城宮跡資料館を訪れる方のために、それぞれの言語文化圏に親和性が高いように、各言語版のリーフレットを異なる内容・デザインにすること。②持って帰りたくなるようなリーフレットを目指し、形の面も工夫し、変わったギミックで来館者がアッと驚き、楽しめるものを作ること。③各言語ごとに、木簡の解説を担当する研究員を決め、3名の多言語化担当研究員と共同で作業にあたり、各言語にもっともふさわしい内容を模索し、それぞれの世界観を表現すること。

試行錯誤を重ねた末に、当初構想したとおり、遊び心満載な、内容も形も全く異なる3種類のリーフレットが完成しました。

英語版は「フラッパー」という特殊変形印刷を採用し、ページをパタパタめくると、木簡調査研究の流れや研究における木簡の削りくずの重要性の解説が四コマ漫画風に現れます。フラッパー印刷では写真とテキストの配置が制限されるうえ、各ページの内容をつなげる必要があるため、どう話を展開するか、非常に悩みました。最終的にでき上がったのは、最小限のテキストで木簡の鮮やかな写真を生かしたデザインに仕上がりました。

中国語版は木簡を収蔵する桐箱を彷彿させるデザインになっています。木簡の豆知識クイズを解きながら、六角形のページを花卉のように開いていくと、

最後に「宝」が現れます。さらに、リーフレットのQRコードを読み込めば、奈文研リポジトリから各木簡の詳細情報を書いた中国語版解説シートをダウンロード・閲覧することができます。

韓国語版は、貴族邸のコース料理をイメージした優雅なデザインに組み上げています。日本の古代料理を紹介し、日韓両国の食べ物にみられる共通点等を伝えることによって、日本の食文化に対する理解を深め、より親しみが感じられるようにすることを目指しました。表面には再現された古代料理の写真を載せ、それぞれの食材にまつわる伝承や韓国料理との共通性を紹介しました。裏面は、わかりやすい説明を入れるとともに、かわいいイラスト等でポップな雰囲気を醸し出しています。

日本語を母語とされない方に効果的に日本文化を伝えるために、今回のリーフレットは従来のやり方にこだわらない方針で挑みました。研究員の間で様々な意見が飛び交い、新しいアイデアや提案を積極的に取り入れ、制作過程を通して、お互い成長し理解が深まったと実感しています。創意工夫が詰まった多言語化木簡解説リーフレットを、多くの来館者に手に取っていただき、木簡をはじめとする奈文研の研究成果への関心を集め、日本文化への興味が一層かきたてられることを期待しています。

(企画調整部 Yanase Peter・呉 修喆・扈 素妍)



新しく作成した多言語化木簡解説リーフレット